

まちだ納税貯蓄組合連合会 優秀賞

『税金のありがたみ』

町田市立木曽中学校 3学年 栗田 南那

私は以前、どんどん消費税が上がっていくことに不満と疑問を抱いていました。特に幼少期は好きだったお菓子が十円から十二円に値上げされたとき、十円玉ワンコインで購入できなくなることもショックだった記憶があります。

しかし、夏休みの課題で税についての作文が出され、税金についての資料を確認しました。資料を見たら私たちは今まで生きてきた中で税金に何度も助けられていたことが分かりました。朝起きて顔を洗う際に使う水道、学校に通うときの道路や信号、学校で授業を受けるときに使う机・椅子・教科書。食事の際に食べる食料も安全な食料を作るための漁業、農業の支援にも税金が使われていて、さらに日頃の警察や消防にも、税金がなくては成り立たないのだと知りました。日頃私たちが税金を支払っていないければ今のような平和や安全な生活ができていなかったかもしれないと考えると少し恐ろしいです。私たちが学習能力をつけられるのは学校の先生の授業を受けているからであって、その先生たちが私たちに授業を教えるということができるのは先生方の意欲、そして義務教育費国庫負担金

という税金が先生方の給料に使用されているからだと思います。改めて税金を支払っている国民のみなさん、仕事を務めてくださっている先生方、給料を出してくださっている国に心から感謝しようと思います。さらに中学生一人あたりの年間公費負担額は百二十八万四千円ととても高額で驚きました。しかも一年でこの値段なので、三年分で三百八十五万二千元。何も考えずに過ごしていました。こんなに負担額がかかっていたのは本当に衝撃で申し訳ない気持ちでいっぱいです。中学校での値段だけでなく、小学校六年分の金額を加算すると、一千二十万六千元になります。考えられないほどの高額です。その事実を知った上いま私たちにできることは、一日一日をより大切に過ごすことだと思います。これから高校生になり、高校生活でも税によって助けられます。お言葉に甘えてより楽しく、真剣に授業を受けることがいま私たちのできる最善の行動ではないでしょうか。教科書や椅子・机を大切に扱っていいと思います。

今回の課題で、これまでの十五年間税に助けられてきたことを学び、理解することができました。義務教育後、これから私たちは大人になります。誰しもがなります。その中で私たちはこれからも税、そして国にお世話になります。国民のため、私たちのため、そして将来の中心となる子どもたちのためにしっかりと税金を支払っていきましよう。